

第3号



## 安全懸架式歩行訓練装置



SP-800 PP-TREAD  
108万円+65万円

# BWST

Body Weight  
Supported Training

トレッドミル歩行



平地歩行



SP-800  
108万円



**POPO** 76万8600円手摺付き



\*POPO動画

- 安全な歩行
- 免荷式で早期の歩行
- 自在走行と直進走行の選択
- 前進負荷、後進ロックが可能

モリトーは、安心と楽と満足を提供します！

モリトーはこんな会社でした。

「リフトは吊り具が大切やで…」 「吊り具を勉強せなあかん」  
1994年大阪城ホール国際展示場での古田恒輔先生との出会いが、当時のモリトーの方向性に大きな影響をあたえたと言えます。  
鉄くずと化したリフトの山の中、友人知人の協力で必死に開発を続け、3種類のリフトを完成。“さあこれからが本番だ”と息巻いているところに、“吊り具が大切だ”と言われ、そんなものなのかなとうわの空で話を聞いていたら、「今度、仙台で吊り具の研究会を開くので来ないか」との話。  
それまでは、何のためらいもなくデンマークのスカンタル社製ネバスリングを採用し、頭まで支えるフルタイプ、背面までのハーフタイプの2種類、身長と体重でS、M、Lを選んでいった。特に困ってはいなかったが、とりあえず仙台会議に参加してみることにした。  
当時、総合商社の兼松株式会社からデンマークのリナック社製電装品を購入しており、積極的な協力関係が築かれようとしていたこともあって、担当の商社マンと一緒に参加することになった。参加して驚いたことが二つあった。  
一つは、吊り具の研究会が第一回目、参加者も少なかったこと。もう一つは、内容もまだまだ未完成のようで、配布された資料や書籍も空白部分が多かったこと。しかし、市川冽氏、窪田静氏、古田氏らの研究発表は、我々にとってとても新鮮な内容で、吊り具の種類、事例、症例、リフト使用上の禁忌事項等多岐にわたっており、介護リフト開発にとっては、絶対に避けては通れない重要なことばかりであることに気づかされた。  
どんなに良いリフトを作ってもそれだけでは全く不十分であること。吊り具が要介護者の身体状況や容態に合っていないと危険であること、介護者が使えるもの、使いやすいものでなければならないこと。  
吊り具の開発が、これからの我々にとって重要な課題であることが明確に位置付けられた瞬間であった。仙台の夜は、深夜まで熱い思いの語りが続いた。

テレビコマーシャル全3部作をご覧ください！



入浴編

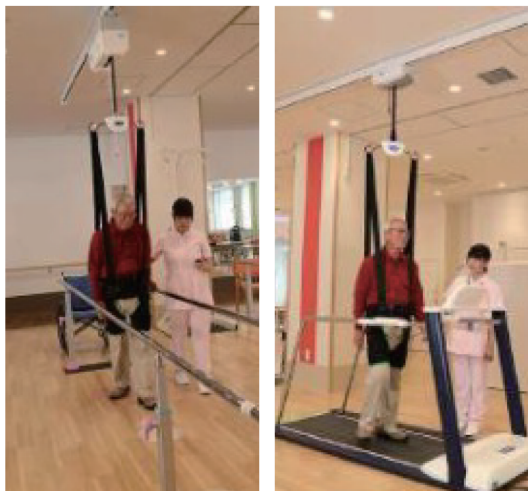


リフト編



ドライブ編

## レール走行式 安全懸架装置



### 重度者用(ハーネスHV)



### 中軽度者用(ハーネスライト) クラッチ(股)ベルトが取り外し可



### 軽度者・転倒防止専用 (スーパーライトハーネス)



\*ハーネスはウエストサイズで  
ご指示ください。

## 安全懸架装置 SP1000—現場の声

### なかむら・ファミリークリニック・デイケアセンターの 3名のPT/OTの先生にお聞きしました。

- 「(使い方)初回10kg以上免荷で、1分間、筋緊張の様子をみて、それから、離れた位置から見守る使い方をしている」
- 「失調性歩行の方、脚部がトレッドミル走行面からはみ出ることがあった」
- 「歩けない人でも歩けるのがすごい。95歳の方、これがないと歩けない」
- 「体幹や下肢機能が不安定でも、安心して歩行訓練出来るのが良い」
- 「関節の負担を減らして歩けるし、持久力がなくてもできる」
- 「脊髄小脳変性症の方の歩容がよくなった」
- 「円背の方、ベルトをつけることにより歩容が良くなり、本来の歩容が蘇る」
- 「円背の方、ベルトが肩のところで擦れる。クッションがあっても良いかも」
- 「はじめは、床を歩く歩行練習の方が良いと思っていた。しかし、体重が重たい方が思っている以上にたくさん歩くことができた」
- 「体重管理のお声かけもできる」

## スプリングハンガー

- 懸架時の自然な歩行
- 転倒時の衝撃を吸収
- 低コスト化の実現
- 体重計で免荷量測定



IBSP1000



MORITOH CORPORATION

株式会社 モリト